

平成29年度
全国学力・学習状況調査

分析結果



下野市教育委員会

平成30年2月

目 次

1	はじめに	1
2	下野市全体の傾向	
(1)	学力調査の結果より	
①	学力調査について	1
②	全体比較	1
③	領域別比較	2
④	国語、算数・数学の課題（概要）	3
(2)	学習状況調査（児童・生徒質問紙）の結果より	
①	学習状況調査について	5
②	良好な面	5
③	課題とされる面	7
3	国語、算数・数学の分析結果	
(1)	国語	
①	小学校国語	
ア	国語A（知識）	7
イ	国語B（活用）	8
②	中学校国語	
ア	国語A（知識）	8
イ	国語B（活用）	9
(2)	算数・数学	
①	小学校算数	
ア	算数A（知識）	10
イ	算数B（活用）	10
②	中学校数学	
ア	数学A（知識）	11
イ	数学B（活用）	12
4	学習状況調査（児童・生徒質問紙）の分析結果	
(1)	基本的な生活習慣	13
(2)	学習時間等	
①	家庭学習の時間について	13
②	授業の予復習等について	14
(3)	国語・読書、算数・数学について	15
(4)	学校生活	16
(5)	家庭でのコミュニケーション	16
(6)	自尊意識、将来に関する意識	17
(7)	規範意識等	18
(8)	地域との関わり、社会に対する興味・関心	18
(9)	学習状況	19
(10)	達成感、挑戦	20
(11)	その他	20

平成29年度全国学力・学習状況調査分析結果

平成30年2月
下野市教育委員会

1 はじめに

下野市教育委員会では、平成29年度の全国学力・学習状況調査の概要について、第一段階として、9月に速報をお知らせしました。

本年度も第二段階として、下野市全体としての結果を分析し、公表いたします。各学校や御家庭におかれましては、この分析結果を今後の学習指導の工夫改善や児童生徒の学習意欲、学習習慣の向上に役立てていただきたいと思います。

2 下野市全体の傾向

(1) 学力調査の結果より

① 学力調査について

学 力 調 査		下野市	栃木県 (公)	全国 (公)
調査対象	小学校 1 2 校	※ 528 人	※ 16,521 人	※ 999,723 人
人数内訳	中学校 4 校	※ 555 人	※ 16,748 人	※ 982,811 人

※国語A・B、算数・数学A・Bのうち最も参加人数が多かった数値で示してある。

- A問題(主として「知識」に関する問題)
- B問題(主として「活用」に関する問題)
 - ◇国語の領域 (小・中) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
 - ◇算数の領域 (小) 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」
 - ◇数学の領域 (中) 「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」

② 全体比較

平成29年度全国学力・学習状況調査(学力調査)結果

下野市と全国(公立)平均正答率との比較【H21～29全体比較】

※ H23、24は抽出調査

◎大きく上回っている(5ポイント以上) ○上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)

—同じ(±1ポイント未満)

▽下回っている(1ポイント以上5ポイント未満) ▼大きく下回っている(5ポイント以上)

小学校	H21	H22	H25	H26	H27	H28	H29	中学校	H21	H22	H25	H26	H27	H28	H29
国語A	○	○	○	▽	▽	—	○	国語A	○	○	○	○	○	○	—
国語B	○	—	○	○	—	○	○	国語B	◎	◎	◎	◎	○	◎	○
算数A	—	○	○	—	—	—	○	数学A	◎	◎	○	○	○	○	○
算数B	—	○	○	○	○	○	○	数学B	◎	◎	◎	◎	◎	○	○

平成29年度の全国学力・学習状況調査の下野市の結果（国語、算数・数学）は、全国平均正答率と比べ、中学校の国語A問題を除き、全国平均正答率を上回る結果となった。

【小学校の全国学力調査全体結果について】

国語A・B、算数A・Bで、全国平均正答率を上回った。

これまでの調査結果の中で、国語B、算数A・Bが一番よい結果となった。国語Aも昨年度の全国平均正答率をさらに上回った。

【中学校の全国学力調査全体結果について】

国語Aが全国平均正答率をわずかに下回り、国語B、数学A・Bは全国平均正答率を上回る結果となった。

平成21年度からの経年変化をみると、全国平均正答率との差が小さくなってきた。

③領域別比較

全国学力調査結果 下野市と全国(公立)平均正答率との比較【H29領域別比較】

◎大きく上回っている（5ポイント以上）

○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

－同じ（±1ポイント未満）

▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

▼大きく下回っている（5ポイント以上）

小学校国語	国語A	国語B	中学校国語	国語A	国語B
話すこと・聞くこと	○	○	話すこと・聞くこと	○	○
書くこと	○	○	書くこと	○	－
読むこと	○	○	読むこと	○	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	▽	▽

小学校算数	算数A	算数B	中学校数学	数学A	数学B
数と計算	○	○	数と式	－	○
量と測定	○	▽	図形	○	○
図形	－	－	関数	－	○
数量関係	○	○	資料の活用	▽	－

【小学校領域別の全国学力調査結果について】

国語のA問題は、15問の設問中、14の設問で全国平均正答率を上回った。全ての領域において1.5～2ポイント上回った。

国語のB問題は、9の設問中、全ての設問で全国平均正答率を上回った。全ての領域において3ポイント以上上回った。

算数のA問題は、15の設問中、13の設問で全国平均正答率を上回った。全ての領域において全国平均正答率を上回った。「数と計算」「量と測定」で全国平均正答率を4ポイント程度上回った。「数量関係」では2ポイント程度上回り、「図形」はほぼ同等の結果となった。

算数のB問題は、11の設問中、9の設問で全国平均正答率を上回った。「量と測定」「図形」が全国平均正答率を1～2.5ポイント程度下回ったが、「数と計算」で4ポイント以上、「数量関係」で2ポイント以上上回った。

【中学校領域別の全国学力調査結果について】

国語のA問題は、32の設問中、18の設問で全国平均正答率を上回った。「書くこと」「読むこと」で全国平均正答率を2ポイント以上、「話すこと・聞くこと」で1ポイント程度上回った。しかし、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では1ポイント以上下回った。

国語のB問題は、9の設問中、8の設問で全国平均正答率を上回った。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を除く3領域で全国平均正答率を0～3ポイント程度上回った。

数学のA問題では、36の設問中、21の設問で全国平均正答率を上回った。「図形」で全国平均正答率を4ポイント程度上回った。「資料の活用」「数と式」では0～1ポイント程度全国平均正答率を下回った。「関数」はほぼ同等の結果となった。数学のB問題では、15の設問中、13の設問で全国平均正答率を上回った。4領域とも全国平均正答率を上回り、「資料の活用」で1ポイント程度、その他3領域で3～4ポイント以上上回った。

④国語、算数・数学の課題

各教科ごとに、領域別に見て、全国平均正答率よりも低い結果となった設問について概要をまとめると次のようになる。

国 語

【小学校】

＜伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項＞

国語Aの7「漢字を読んだり書いたりする」設問の(1)で、1.7ポイント全国平均正答率を下回った。文の意味を理解した上で、漢字を正しく書くことに課題がある。

【中学校】

＜話すこと・聞くこと＞

国語Aの7「学校図書館で先生に相談する」設問の二「話すための材料を人との交流を通して集めること」で0.9ポイント全国平均正答率を下回った。自分の伝えたいことを的確に伝えたり、相手の話したことを正確に理解したりすることに課題がある。

＜伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項＞

国語Aで対象となる18の設問のうち13問が全国平均正答率を下回った。文脈に即して漢字を書いたり読んだりすることや語句の意味を理解して文脈の中で適切に使うこと、助詞の働きの理解、楷書と行書との違いの理解、行書の特徴の理解、古典の種類理解に課題がある。

国語B1「文学的な文章を読む」設問の三「比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く」で2.8ポイント全国平均正答率を下回った。表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことに課題がある。

算数・数学

【小学校】

<数と計算>

算数Aの②の(2)「小数と整数の加法計算」、②の(3)「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」の設問では、全国平均正答率とほぼ同等のポイントとなった。数の仕組みや計算の順序の決まりの理解に課題がある。

<量と測定>

算数Bの③の(2)「仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める」設問では、全国平均正答率を5.5ポイント下回った。仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述することに課題がある。

<数量関係>

算数Bの⑤の(2)「与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、『最大の満月の直径』に近い硬貨を選び、選んだわけを書く」設問では、全国平均正答率を0.9ポイント下回った。身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断に理由を記述することに課題がある。

【中学校】

<数と式>

数学Aの①(1)「分数の乗法の計算ができる」で1.5ポイント、①(3)「加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる」で5.4ポイント、②(3)「整式の加法と減法の計算ができる」で5.4ポイント、②(4)「等式を目的に応じて変形することができる」で4.7ポイント、③(1)「簡単な一元一次方程式を解くことができる」で0.7ポイント、全国平均正答率を下回った。基礎的な計算の定着に課題が見られる。

<図形>

数学Aの④(2)「平行移動した図形をかくことができる」で1.2ポイント、数学Aの⑤(3)「見取図に表された立方体の面上の線分の長さの読み取ることができる」で1.7ポイント全国平均正答率を下回った。基礎的な図形の概念の定着が課題といえる。

数学B④(3)「証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすことができる」で1.5ポイント全国平均正答率を下回った。証明を振り返り、新たな性質や関係を見いだすことに課題がある。

<関数>

数学Aの⑩(1)「比例 $y = 4x$ について、 x の値が3のときの y の値を求める」設問で1.7ポイント、⑪(1)「一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、式で表すことができる」設問で3.7ポイント、⑪⑪の(2)「変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ」設問で1.8ポイント、⑬③「二元一次方程式が表すグラフを選ぶ」設問では、2.5ポイント全国平均正答率を下回った。特に一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することや二元一次方程式を関数を表す式とみることに課題がある。

<資料の活用>

数学Aの⑭④(1)「反復横とびの記録の範囲を求める」設問で5.5ポイント、⑭④(2)「6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める」設問で2.7ポイント全国平均正答率を下回った。範囲の意味の理解や与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることに課題がある。

数学Bの⑤(3)「『420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある』と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する」設問で全国平均正答率を

2. 8ポイント下回った。資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

(2) 学習状況調査（児童・生徒質問紙）の結果より

①学習状況調査について

学習状況調査		下野市	栃木県（公）	全国（公）
調査対象	小学校 1 2 校	528 人	16,017 人	985,597 人
人数内訳	中学校 4 校	555 人	16,681 人	978,625 人

質問数	小学校 9 2 項目、中学校 9 4 項目			
回答方法 （主に）	4 つから選択 1 している（当てはまる） 2 どちらかといえば、している（当てはまる） 3 あまりしていない（どちらかといえば、当てはまらない） 4 全くしていない（当てはまらない）			
質問内容	○基本的な生活習慣 ○学習時間等 ○国語、算数・数学の学習状況 ○学習に対する関心・意欲・態度 ○学校生活等 ○家庭でのコミュニケーション等 ○自尊意識・将来に関する意識 ○規範意識等 ○地域との関わり・社会に対する興味・関心 ○部活動への参加や活動時間（中学校のみ）等			

今年度の学習状況調査（児童・生徒質問紙）の結果は、小学校では 9 2 項目中 4 1 項目で全国・県平均と同等または上回っていた。中学校では 9 4 項目中 5 3 項目で全国・県平均と同等または上回っていた。

小・中学校とも共通して、「朝食摂取」「達成感」「話を最後まで聞く」「宿題をする」「学校で友達に会うのが楽しい」「学校で好きな授業がある」「学校の決まりを守る」「友達との約束を守る」「いじめはいけない」「国語の書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」等について、よい傾向が見られた。

②良好な面

学習状況調査の下野市の結果を全国、県と比べて小学校・中学校ともに上回った質問内容は、次のとおりであった。2 2 項目で上回る結果となった。

質問番号 (小, 中)	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(12)※	普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVD を見たり、聞いたりしますか（勉強のためのテレビやビデオ・DVD を見る時間、テレビゲームをする時間は除く）* 2 時間未満	47.0	44.0	55.3	50.8
(15)※	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）* 1 時間以上	71.7	64.4	79.5	69.6
(24, 26)	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	79.2	78.1	77.7	74.3
(26, 28)	テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか	63.5	58.3	39.1	34.0

(28, 30)	家の人(兄弟姉妹を除く)は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか	98.0	96.0	94.3	84.1
(35, 37)	学校で、好きな授業がありますか	95.6	93.0	82.9	79.2
(36, 38)	学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか	55.5	50.3	51.5	40.5
(37, 39)	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか	91.1	87.8	92.2	86.0
(40, 42)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	73.1	62.6	46.5	42.1
(44, 46)	地域の大人(学校や塾・習い事の先生は除きます。)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	45.2	41.1	26.6	23.6
(45, 47)	新聞を読んでいますか *週に1～3日以上	24.6	21.0	18.4	14.9
(49, 51)	学校の規則を守っていますか	95.5	92.6	96.2	95.2
(52, 54)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.8	96.1	96.0	92.8
(53, 55)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	93.7	92.5	94.1	91.9
(54, 56)	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	78.6	69.8	78.5	64.3
(57, 59)	5年生まで(中学1、2年生)に受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	88.2	84.5	94.2	81.8
(61, 63)	5年生まで(中学1、2年生)に受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか	94.2	88.2	93.9	87.8
(66, 68)	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか *難しいと思わない・どちらかといえば思わない	56.1	59.5	58.5	62.5
(77, 79)	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	80.5	77.2	77.3	72.3
(78, 80)	算数(数学)の勉強は好きですか	69.7	65.9	59.7	55.4
(88, 90)	今回の算数(数学)の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	72.7	69.9	60.7	55.4
(90, 92)	調査問題の解答時間は十分でしたが(国語B) *ちょうどよい、時間が余った	70.6	66.1	86.8	86.3

数字は、選択肢1「している」2「どちらかといえば、している」の合計
または、選択肢1「当てはまる」2「どちらかといえば、当てはまる」の合計

③課題とされる面

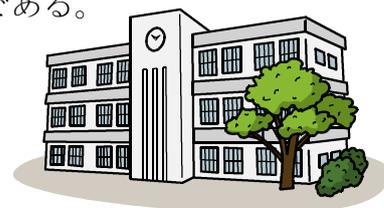
学習状況調査の下野市の結果を全国及び県と比べて、小学校と中学校ともに下回った質問内容は、次のとおりであった。

質問番号 (小, 中)	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(7)	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	48.3	52.2	48.1	50.5
(25, 27)	携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	43.3	48.7	48.8	50.6
(84, 86)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.0	89.1	71.8	72.4

数字は、選択肢1「している」2「どちらかといえば、している」の合計
または、選択肢1「当てはまる」2「どちらかといえば、当てはまる」の合計

3 国語、算数・数学の分析結果

※ 本分析で使用している全国平均は、公立学校の平均である。



(1) 国語

①小学校国語

ア 国語A (知識)

《全体的な傾向》

平均正答率は、すべての領域で全国平均を1.5～2ポイント上回り、良好な結果だった。

○全国平均を下回った設問

7 漢字を読んだり書いたりする
3 参加たいしょう (正答率 本市 40.3% 全国 42.0%)

◇分析結果

「対」は書けているが、「しょう」を「象」と解答していない割合が16%だった。また、無回答率が9%を上回り、設問の中で一番多い割合だった。

◎学習指導に当たって

学習した漢字を繰り返し練習することだけでなく、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導することが大切である。そのために、児童がノートや作文、日記等を書いたときに、正しい漢字を使うことができているか振り返ることができる機会を設けたい。

また、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を身に付けさせるようにし、正しく適切に漢字を表記することができるように指導することが大切である。そのために、第3学年から学習する辞典の使い方を意図的、計画的に指導し、他教科等で調べる学習や日常生活の中でも積極的に辞典を利用できるようにしたい。

イ 国語B (活用)

《全体的な傾向》

平均正答率は、すべての領域で全国平均を3ポイント以上上回った。また、すべての設問において全国平均を上回り、良好な結果となった。

○全国平均を上回ったが、正答率が低かった設問

3 二



【話し合いの様子の一部】の中の~~~~部ア・イの発言は、この話し合いの中で、それぞれどのような意図がありますか。最も適切なものを、次の1から4までの中からそれぞれ一つ選んでその番号を書きましょう。

(正答率 本市 29.2 % 全国 28.0 %)

解答類型

- 1 アに1、イに4と解答している (正答)
- 2 アに1と解答しているが、イに4と解答していない
- 3 イに4と解答しているが、アに1と解答していない
- 4 上記以外の解答
- 5 無解答

◇分析結果

解答類型3の「イに4と解答しているが、アに1と解答していない」誤答の割合が47.5%で、約半数の児童が同じ間違いをしていた。「どこからそう思うの」という発言には、相手の考えの基となる叙述を明らかにしようとする意図があることを捉えることができなかったと考えられる。

◎学習指導に当たって

もの見方や考え方を広げるために、物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにすることが重要である。そのために、まず、「自分の考えについて友達の意見を聞きたい」、「分からないところを相談したい」など、児童一人ひとりが交流の目的をもてるようにすることが大切である。そして、相手の考えの基になった叙述を明確にするために、どの叙述からそう思ったのか質問したり、相手の考えを聞いて自分の理解が正しいか確かめたりするなど、互いに補完し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりできるよう指導したい。

②中学校国語

ア 国語A (知識)

《全体的な傾向》

平均正答率は、全国平均とほとんど変わらず、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3つの領域では全国平均を1～2.5ポイント上回ったが、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項で1.5ポイント以上下回った。

○全国平均を大きく下回った設問

9

1 線部のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。

2 雨で運動会がエンキになる。 (正答率 本市 45.2 % 全国 62.3 %)

◇分析結果

「延」だけ正しく解答している割合は約2%、「期」だけ正しく解答している割合は約20%、無解答率は約24%となった。

◎学習指導に当たって

漢字を書くことの指導では、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を身に付けさせ、文脈に即して漢字を書くように注意しながら学習させることが大切である。また、他教科等の学習でも同音の漢字や形が似ている漢字などの間違いやすい漢字について意識させることも大切である。そのために、必要に応じて辞書を引くことを習慣づけたり、書写の学習との関連を図って楷書で正しく整った文字を書かせたりするように指導したい。

イ 国語B (活用)

《全体的な傾向》

平均正答率は、全国平均を約2ポイント上回った。国語A(知識)と同様に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3つの領域では全国平均を1～2.5ポイント上回ったが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では全国平均を2.5ポイント以上下回った。

○全国平均を下回った設問

1 三 青山さんは、【本の紹介カード】にある「比喩を用いた表現」に着目して【本の一部】を読み、感じたことや考えたことなどをあとの【読書の記録】に書いています。あなたなら【読書の記録】の〈心に残った一文〉と〈感想〉にどのようなことを書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1〈心に残った一文〉は、【本の一部】から、比喩を用いた表現が含まれる一文を書き出して書くこと。

条件2〈感想〉は、条件1で取り上げた表現について、「誰(何)」の、「どのような」様子なのかを明確にした上で、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

(正答率 本市 38.6 % 全国 41.4 %)

◇分析結果

〈感想〉には抜き出した比喩を用いた表現について、感じたことや考えたことを具体的に書いているが、「誰(何)」の、「どのような」様子なのかを明確にして書くことができていない解答の割合が15.5%と、他の誤答と比較すると高かった。

◎学習指導に当たって

文学的な文章を読んで印象に残った場面や描写を取り上げ、なぜその場面や描写が印象に残ったのかを具体的に説明する学習活動を取り入れることが考えられる。その際、取り上げた場面や描写がどのような内容であるのかを明確にして感じたことや考えたことを説明できるように指導することが大切である。また、新聞やインターネットの書評、本のポップなどを取り上げ、そこに書かれたものの見方や考え方と自分のものの見方や考え方を対比させて新しい考えを知り、自分の考えを再構築する学習活動も考えられる。

(2) 算数・数学

①小学校算数

ア 算数A (知識)

《全体的な傾向》

平均正答率は、全国平均を約3.4ポイント上回り、良好な結果となった。「数と計算」「数量関係」に関する設問で、「小数と整数の加法」が0.5ポイント、「乗法の混合した小数と整数の計算」が0.1ポイント、全国平均を下回った。

○全国平均を下回った設問

○設問の概要 算数A

2 (3) $6 + 0.5 \times 2$

○出題の趣旨

加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができるかどうか。

○学習指導要領の内容・領域

第4学年 D 数量関係 (2) ア

◇分析結果

本市の正答率は66.8%であり、全国の正答率(66.9%)をわずかに下回っている。A問題の中では正答率が最も低く、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることに課題がある。誤答については、乗法を先に計算せず左から順に計算し、13と解答しているものが18.2%と大部分を占めた。次いで左から計算し、 $6 + 0.5$ を位をそろえず1.1又は11とし、結果として2.2または22と解答しているものが多かった。これは、A2(2)の「 $10.3 + 4$ 」でも同様の傾向が高かった。

◎学習指導に当たって

四則の混合した式では、単に計算の順序を暗記させたり、計算に慣れさせたりするだけでなく、数量を図で表したり、具体的な場面と関連付けたりして理解を図ることが大切である。

また、整数と小数の計算についての筆算では、加法、減法では位をそろえて計算しなくてはならない理由、乗法では末尾をそろえて計算する理由を説明する活動を取り入れ、筆算の仕方について確認する活動が考えられる。

イ 算数B (活用)

《全体的な傾向》

平均正答率は、全国平均を約3.1ポイント上回り、良好な結果であった。「図形」についての出題は1題であったが、0.9ポイント全国平均を下回った。また、「量と測定」についての設問では、全国平均正答率を5.5ポイント下回った。

○全国平均を大きく下回った設問

○設問の概要 算数B

仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める。

○出題の趣旨

仮の平均を用いて考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を、言葉や式を用いて記述できるかどうか。

○学習指導要領の内容・領域

第4学年 D 数量関係 (2) ア、第5学年 B 量と測定 (3) ア

◇分析結果

本市の正答率は20.6%で、全国の正答率(26.1%)を5%以上下回っている。仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を、言葉や式を用いて記述することに課題がある。誤答の中で7mを基準にして記述しているものが25.4%と目立って多く、このように回答した児童は、仮の平均を用いた考えを解釈し、基準とする数値が7mから7m20cmに変わったことを捉えることができずに、問題に示されているかずやさんの平均の求め方をそのまま記述していると考えられる。

◎学習指導に当たって

測定値の平均を求める際は、平均がおよそどのくらいになるのかを見積もったり、能率的に処理するために工夫して計算したりすることが大切である。

例えば、本設問では、事象をグラフで表すなどして、測定値の結果をそのまま使い平均を求める場合と、7mを基準として平均を求める場合について考察した後、7m20cmに基準を変えて考察する活動を設けることが考えられる。その際、式とグラフ、言葉に関連付けて説明する活動を取り入れると効果的である。

このような活動により、仮の平均の考え方を活用することで、平均を工夫して処理することができる場合があることを実感できるようにすることが大切である。

また、測定値を平均する活動は、理科等での活用にもつなげたい。

②中学校数学

ア 数学A(知識)

《全体的な傾向》

平均正答率は、全国平均を約1.4ポイント上回ったが、「資料の活用」については1.4ポイント全国平均を下回った。

○全国平均を大きく下回った設問

○設問の概要 数学A

14 (1) 反復横跳びの記録の範囲を求める

(2) 6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める。

○出題の趣旨

- ・ 範囲の意味を理解しているかどうか。
- ・ 度数分布表から相対度数を求めることができるかどうか。

○学習指導要領の内容・領域

第1学年 D 資料の活用(1)ア、イ

◇分析結果

本市の正答率は、(1)が23.1%で、全国の正答率(28.6%)を5ポイント以上下回っており、「範囲」の意味の理解に課題がある。誤答については、「40から55」と解答したものが36.3%であり、この中には、「範囲」の意味を数学用語としてとらえていない生徒が多くいると考えられる。

(2)の本市の正答率は42.8%で、全国の46.1%を3.3ポイント下回っている。与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることに課題があると考えられる。誤答については「3」と答えているものが19.5%であり、階級の相対度数と度数を混同している生徒がいると考えられる。

(1)(2)とも、数学用語を正しくとらえていない生徒が多数いると考えられる。

◎学習指導に当たって

第1学年の「資料の活用」の指導に当たっては、様々な数学用語を取扱い、「範囲」「相対度数」「階級」は、意味、使い方等、確実に押さえるべき用語である。

「範囲」については、資料の散らばりの程度を押さえる活動を行う際に、資料の最大値から最小値を引いた値を求めた上で、資料の範囲の意味を理解できるように指導することが大切である。例えば、平均値の等しい100 m 走の2人の選手のタイムを比較したとき、範囲の値の大小を比較することで、それぞれの選手のタイムの安定性を比べたり、資料の分布の特徴を表す1つの値として用いたりするなど、活用場面から学習を設定することが考えられる。

「相対度数」については、総度数の異なる2つ以上の資料の傾向を比較する場合、各階級の度数に対する割合が明らかになるので、大きさの異なる集団の階級ごとの比較が可能になる。全校生徒数の違う学校の通学時間の調査等、階級の度数をそのまま比較することが適切ではないような問題を扱うことで、相対度数の必要性和意味について理解できるようにすることが考えられる。

また、B 問題5の資料の活用の設問(3)では、本市の正答率は14.8%と最も低く、資料の傾向を的確に捉えたり、数学用語を適切に用い数学的な表現で説明したりする活動を十分行いたい。

イ 数学B(活用)

《全体的な傾向》

平均正答率は、全国平均を約1.9ポイント上回った。「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域について、すべて全国平均を上回っているが、「図形」に関する設問の中で1.5ポイント、数学A(知識)と同様「資料の活用」に関する設問の中で2.8ポイントそれぞれ全国平均を下回ったものがあった。

○全国平均を下回った設問

○設問の概要 数学B

4 (3) 点Dと点Eを $BD = CE$ の関係を保ったまま動かしたとき、 $\angle BFD$ の大きさについて、正しい記述を選ぶ

○出題の趣旨

証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすことができるかどうか。

○学習指導要領の内容・領域

第2学年 B 図形(1)ア、(2)ウ

◇分析結果

本市の正答率は、43.0%であり、全国の正答率(44.5%)を1.5%下回っている。誤答については、「イ $\angle BFD$ の大きさは、大きくなっていく。」を選択したものが46.6%と約半数を占めている。この中には、 $BD = CD$ という条件が保たれていることに着目できず、点Dのみを動かした時の $\angle BFD$ の大きさについて答えた生徒がいると考えられる。

◎学習指導に当たって

ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を見いだすことができるようにするために、条件を保ったまま変形させる図形を観察することで、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れることが考えられる。

設問4のような問題では、(1)で $\triangle ABD$ と $\triangle BCE$ が合同であることを証明することで、 $\angle DBF + \angle BDF = 120^\circ$ であり、 $\angle BFD = 60^\circ$ ということがいつでも成り立つ関係であるということにも気付かせたい。また、(2)のような場面をいくつか設定することで、帰納的に推測する学習も考えられる。

4 学習状況調査（児童・生徒質問紙）の分析結果

（1）基本的な生活習慣

「朝食を毎日食べていますか」、就寝・起床時刻については、小中学生ともに全国とほぼ変わらない状況である。

本市の小中学生は、基本的な食習慣や規則正しい起床ができるなどの基本的な生活習慣が、全国と比較してよりよく定着していることを確認することができた。起床時刻に比べると就寝時刻が安定していないことが昨年度に引き続き課題として挙げられる。

今後も規則正しい生活習慣の大切さを児童生徒に指導するとともに、家庭にも引き続き啓発を行い、現在の好ましい生活習慣を継続させていくことが望まれる。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(1)	朝食を毎日食べていますか	95.9	95.4	93.7	93.2
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	82.3	79.8	75.2	75.6
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.0	91.2	93.6	92.4

※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

（2）学習時間等

〈家庭学習の時間について〉

「学校の授業時間以外に、平日1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」で、1時間以上勉強している小学生は約72%（昨年度比約3ポイント増）、中学生は約80%（昨年度比5ポイント増）と、いずれも昨年度より上回った。「学校が休みの日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」で、2時間以上勉強している小学生は、約27%（昨年度比1ポイント減）、中学生は約47%（昨年度比2ポイント増）という状況であった。今年度の結果も昨年度同様全国平均を上回っており、本市の児童・生徒の家庭学習時間は確保され、習慣化されているといえる。

「学習塾に通っている合計」は、昨年度と比較すると、小学校では5ポイント減少し、中学校は1ポイント増加している。

〈授業の予復習等について〉

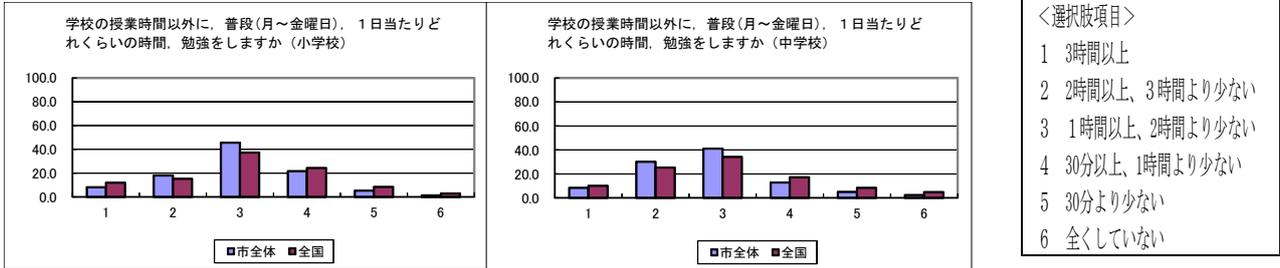
「授業の予習をしていますか」「授業の復習をしていますか」は、「している」「どちらかといえば、している」の合計は、昨年度に引き続き小中学生ともに全国平均を上回った。特に、復習の時間が小学校で7.6ポイント、中学校で15.2ポイント全国平均を上回っており、本市の小中学生は、学校での学習を家庭において復習し、学習内容の定着を図っていると考えられる。

① 〈家庭学習の時間について〉

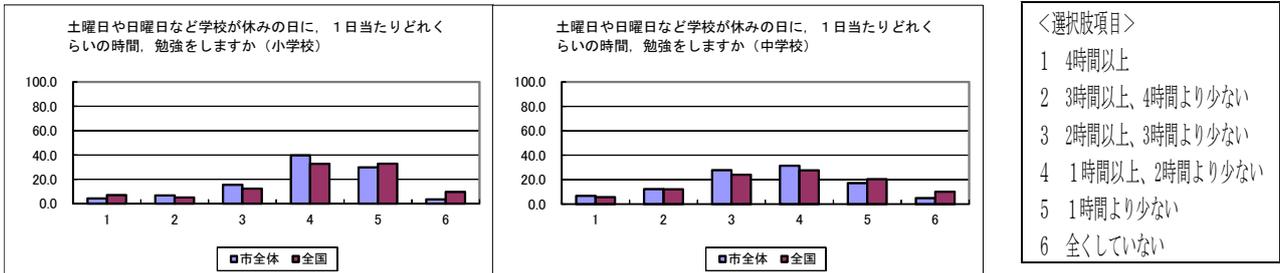
質問番号 (小, 中)	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(15)	学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (学習塾や家庭教師含む) * 1時間以上の合計	71.9	64.4	79.5	69.6
(16)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (学習塾や家庭教師含む) * 2時間以上の合計	26.7	24.6	46.7	41.8

(17)	学習塾（家庭教師含む）で勉強をしていますか * 学習塾に通っている合計	48.7	45.8	66.3	61.4
(29, 31)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	70.1	64.5	55.0	51.5

(15) 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



(16) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

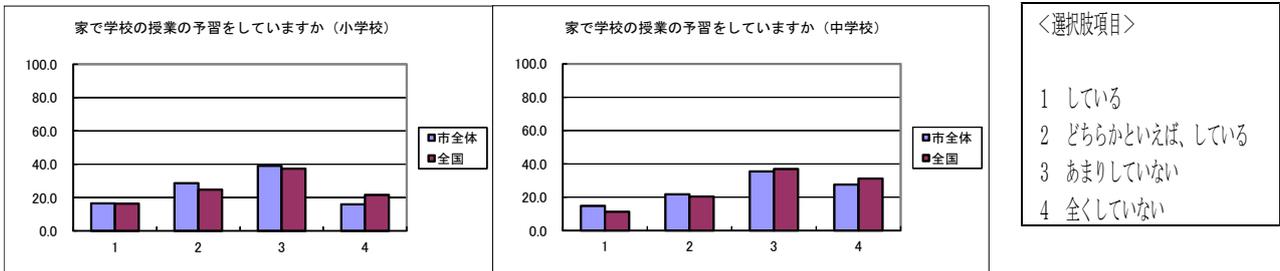


② 〈授業の予復習等について〉

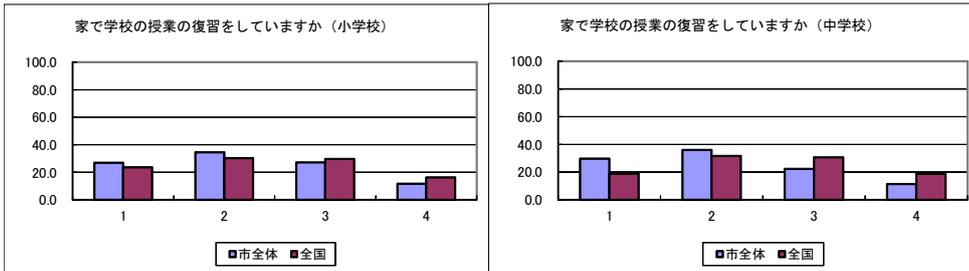
質問番号 (小, 中)	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(30, 32)	家で学校の宿題をしていますか	98.1	96.9	89.2	89.5
(31, 33)	家で学校の授業の予習をしていますか	45.1	41.0	36.6	31.7
(32, 34)	家で学校の授業の復習をしていますか	61.4	53.8	65.7	50.5

※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

(31, 33) 家で学校の授業の予習をしていますか



(32, 34) 家で学校の授業の復習をしていますか



- <選択肢項目>
- 1 している
 - 2 どちらかといえば、している
 - 3 あまりしていない
 - 4 全くしていない

(3) 国語、読書、算数・数学について

国語の勉強については、小中学生とも全国平均を上回っている。しかし、昨年度と比較すると、「国語の勉強は好きですか」で小中学生ともに5ポイント程度、「国語の勉強は大切だと思いますか」で小中学生ともに2ポイント、「国語の授業の内容はよく分かりますか」で中学生が3ポイント下回っていた。小学校の学力調査結果は昨年度より良好な結果だったが、国語の勉強に対する意欲が昨年度より低い結果となっている。

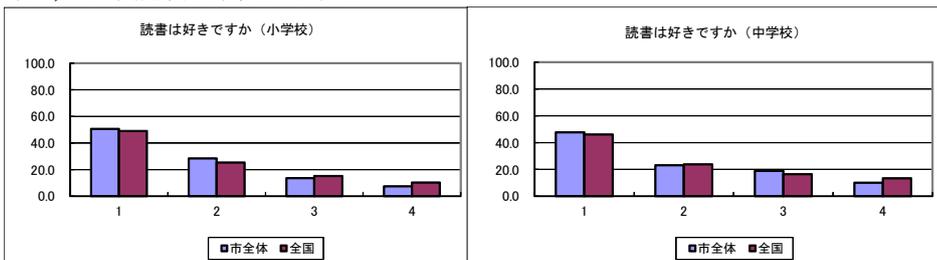
「読書は好きですか」では、小中学生とも全国平均を上回り、どちらも昨年度より3ポイント程度上回った。小学校では朝の読書が定着している結果と考える。中学校においても本に親しむ割合が増加しており、引き続き読書の時間を大切にしたい。

算数(数学)の勉強については、小学生は全国平均を上回り、昨年度とほぼ変わっていない。中学生は「数学の勉強は好きですか」で全国平均を上回り、昨年度より4.5ポイント程度上回った。しかし、「数学の勉強は大切だと思いますか」「数学の授業の内容はよく分かりますか」で全国平均を1ポイント程度下回り、昨年度より3～5ポイント下回った。生徒にとって分かりやすい授業を心掛け、学習することの意義を伝えていくことで、更なる学力向上につながると考える。

質問番号 (小, 中)	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(69, 71)	国語の勉強は好きですか	63.5	60.5	61.4	60.5
(70, 72)	国語の勉強は大切だと思いますか	92.2	91.2	90.4	88.8
(71, 73)	国語の授業の内容はよく分かりますか	82.6	82.2	76.4	74.9
(72, 74)	読書は好きですか	79.0	74.3	70.8	69.9
(78, 80)	算数・数学の勉強は好きですか	69.7	65.9	59.7	55.4
(79, 81)	算数・数学の勉強は大切だと思いますか	93.6	92.0	79.8	81.1
(80, 82)	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	82.2	80.6	68.1	69.4

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(72, 74) 読書は好きですか



- <選択肢項目>
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない



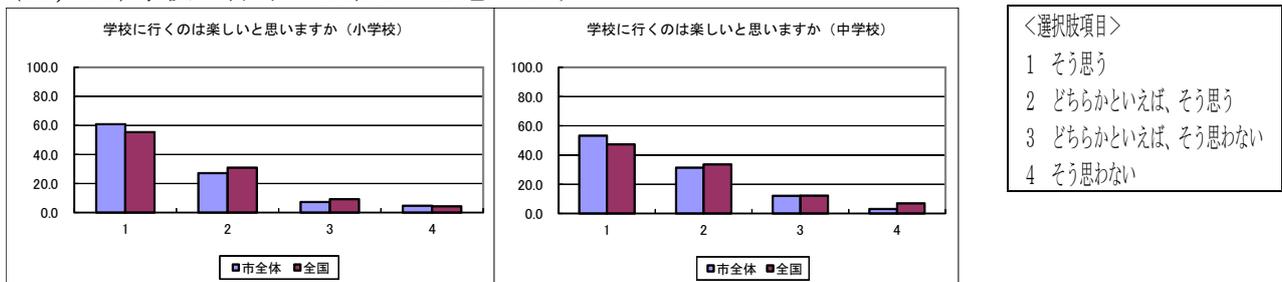
(4) 学校生活

「学校へ行くのは楽しいと思いますか」で、小中学生ともに全国平均を上回り、80%以上が学校に行くのを楽しんでいると感じている。また、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」で、小中学生とも90%を上回ったことから、多くの児童生徒が友達と協力しながら楽しい学校生活を送っていることが分かる。今後も児童生徒一人ひとりが居がいのある学級づくりと、望ましい人間関係の育成に努めていきたい。

質問番号 (小, 中)	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(33, 35)	学校に行くのは楽しいと思いますか	87.9	86.3	84.6	80.9
(37, 39)	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか	91.1	87.8	92.2	86.0

※数値は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(33, 35) 学校に行くのは楽しいと思いますか



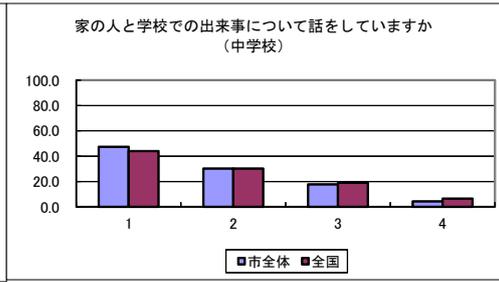
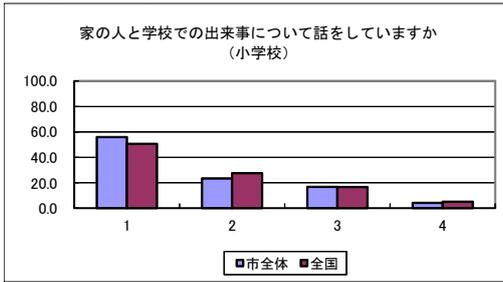
(5) 家庭でのコミュニケーション

「学校での出来事について話をしますか」は、小中学生ともに全国平均を1～3ポイント上回る結果となった。また「家の人と将来のことについて話すことがありますか」では、小中学生ともに全国平均より8～10ポイント上回った。今後もファミリーエ下野市民運動の「家庭では子どもに話しかけよう！」を実践していけるように、家庭への啓発を継続して行いたい。

質問番号 (小, 中)	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(24, 26)	家の人と学校での出来事について話をしていますか	79.2	78.1	77.7	74.3
(27, 29)	家の人と将来のことについて話すことがありますか	48.1	40.4	70.8	60.7

※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

(24, 26) 家の人と学校での出来事について話をしていますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 している
 - 2 どちらかといえばしている
 - 3 あまりしていない
 - 4 全くしていない



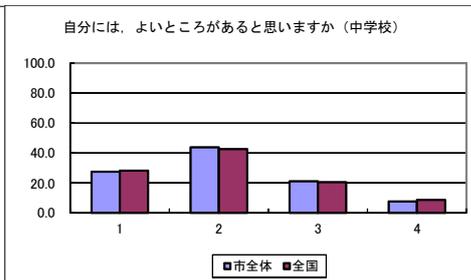
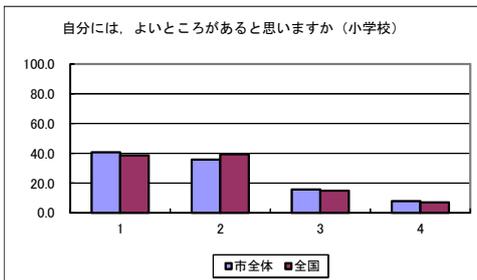
(6) 自尊意識、将来に関する意識

「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」で、小学生は全国平均を10ポイント、中学生では3ポイント上回っているが、「自分には、よいところがあると思いますか」では、中学生が全国平均を上回ったものの、小中学生ともに昨年度より1～2ポイント下回っており、依然として自己肯定感が低いことが分かる。また、話し合う活動では友達の話最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う割合は、小中学生とも全国平均より高い。しかし、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」では全国平均を2～4ポイント下回っている。グループ等で話し合う活動以外にも友達の前で発表する場を設けたり、互いのよいところを認め励まし合う活動を取り入れたりすることで、自分の考えや意見を自信をもって発表できるようにしたい。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(6)	自分には、よいところがあると思いますか	76.5	77.9	71.2	70.7
(7)	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	48.3	52.2	48.1	50.5
(8)	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	96.0	94.3	95.7	94.6
(9)	将来の夢や目標をもっていますか	86.6	85.9	77.0	70.5

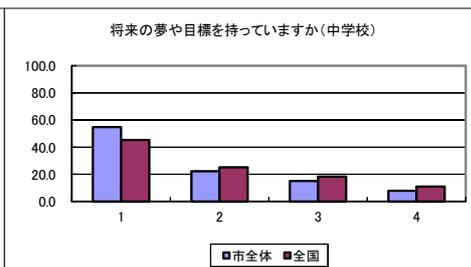
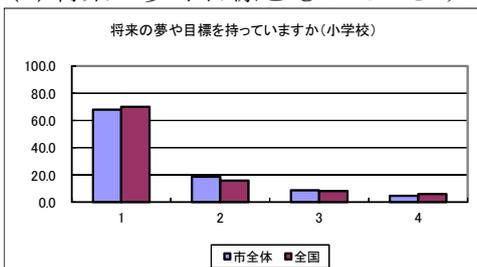
※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(6) 自分には、よいところがあると思いますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(9) 将来の夢や目標をもっていますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

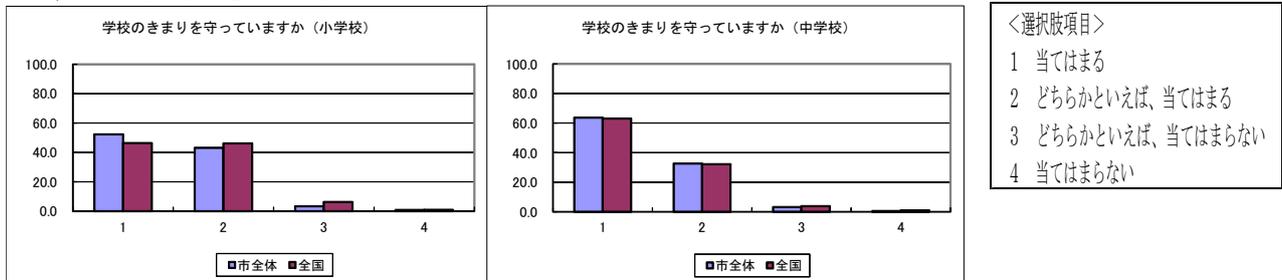
(7) 規範意識等

「学校のきまりを守っていますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」のどちらも、全国平均を上回り、昨年度よりも割合が高くなった。本市の小中学生は、規範意識が高い状況がうかがえる。学校や学級が規律ある集団生活を送ることができる環境であれば、児童生徒は安心して学習に取り組むことができ、学力向上につながっていく。今後も児童生徒一人一人が成長していけるよう、学びに向かう集団づくりに努めたい。

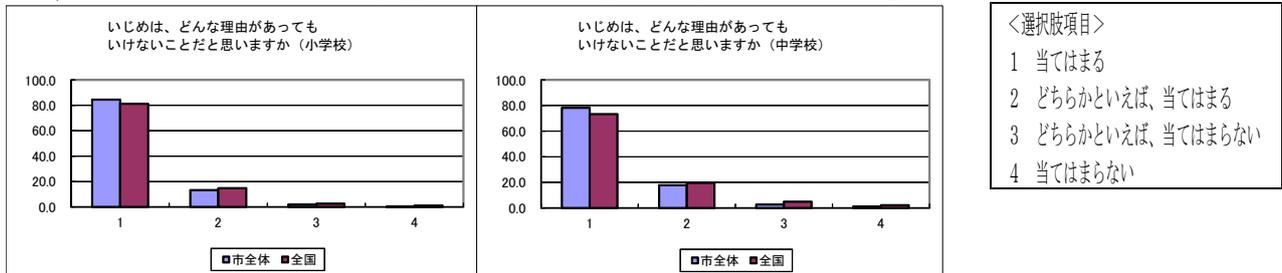
質問番号 (小, 中)	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(49, 51)	学校のきまり(規則)を守っていますか	95.5	92.6	96.2	95.2
(52, 54)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.8	96.1	96.0	92.8

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(49, 51) 学校のきまりを守っていますか



(52, 54) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



(8) 地域との関わり、社会に対する興味・関心

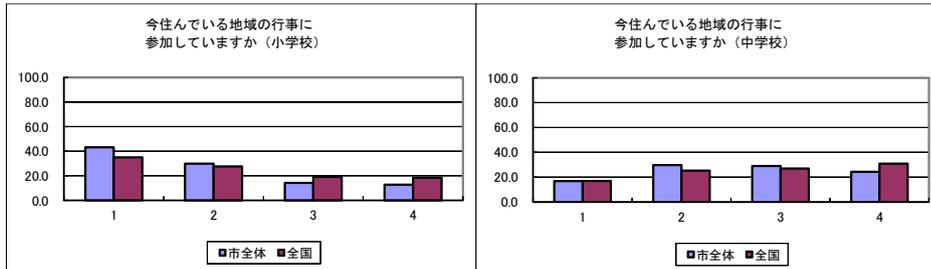
「今住んでいる地域の行事に参加していますか」では、小中学生ともに全国平均を上回り、特に小学生では全国平均を10ポイント以上上回った。「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」については、小中学生とも全国平均を上回っているものの、昨年度より3～5ポイント下回った。「新聞を読んでいますか」「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」で、小中学生とも全国平均を上回った。小学生は生活科や社会科等の学習で自分の住んでいる地域について学習していることから、地域とつながりが強く児童の関心も高いと考えられる。今後も地域と連携しながら児童生徒を育てていきたい。

質問番号 (小, 中)	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国

(40, 42)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	73.1	62.6	46.5	42.1
(41, 43)	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか	70.6	63.9	65.4	59.2
(43, 45)	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	38.6	35.4	38.0	49.7
(45, 47)	新聞を読んでいますか	48.7	40.2	36.2	30.4
(46, 48)	*「ほとんど、または、全く読まない」以外 テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか	85.6	84.6	89.2	86.7

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(40, 42) 今住んでいる地域の行事に参加していますか



- <選択肢項目>
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない



(9) 学習状況

学習状況に関するほとんどの項目において、小中学生とも全国平均値を上回る結果となった。特に中学校での「話し合い活動」の実施については全国平均より10ポイント以上高い項目もあり、昨年度に引き続き良好な結果となった。

「授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」で、小中学生とも90%を上回る回答だった。「授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」で、小学生の回答は90%を上回った。また、「授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」で、中学生は全国平均を13ポイント以上上回った。

児童生徒は、自分の考えを発表したり、友達と意見を交換し合ったりする活動を授業で行っていると実感しながら学習している。今後もねらいを明確にした話し合い活動に取り組み、児童生徒が自分の考えをもち、自信をもって発表したり書いたりしながら、自分の考えを深めたり広げたりすることができるようにしていきたい。

質問番号 (小, 中)	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(54, 56)	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	78.6	69.8	78.5	64.3
(56, 58)	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	85.2	84.7	88.1	84.4
(57, 59)	授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	88.2	84.5	94.2	81.8
(58, 60)	授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	79.8	75.1	84.5	71.3
(61, 63)	授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	94.2	88.2	93.9	87.8

(62, 64)	授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	79.9	76.2	79.6	66.1
(63, 65)	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか	91.9	88.7	80.2	80.3
(66, 68)	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか*	43.9	40.3	41.3	37.3
(67, 69)	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか*	45.3	46.2	42.0	36.0
(68, 70)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	71.9	68.2	71.0	64.8

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

ただし*をつけた(66, 68)(67, 69)は「どちらかといえば思わない」「思わない」の合計

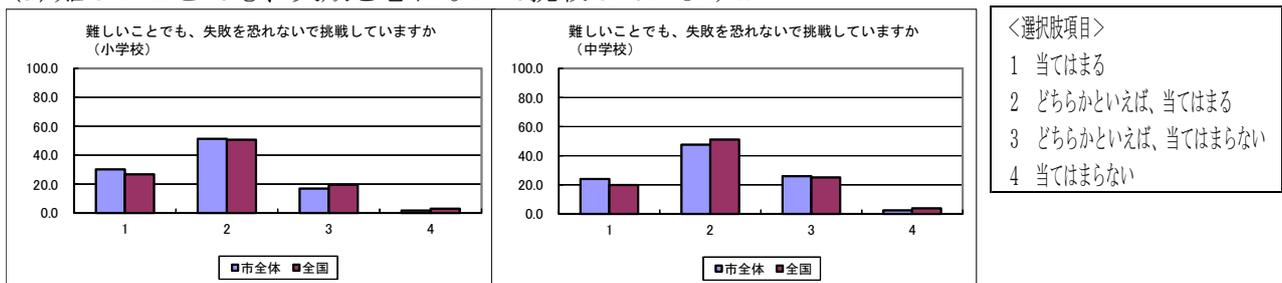
(10) 達成感、挑戦

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」で、小中学生ともに全国平均を上回った。子どもに達成感をもたせたり挑戦しようとする気持ちをもたせたりすることは、学習意欲を高めることにつながる。児童生徒一人一人に応じた課題に設定し取り組ませることで、さらに学習意欲を高められるようにしたい。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(4)	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	96.4	94.8	95.7	94.7
(5)	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	81.4	77.4	71.6	71.0

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(5) 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



(11) その他

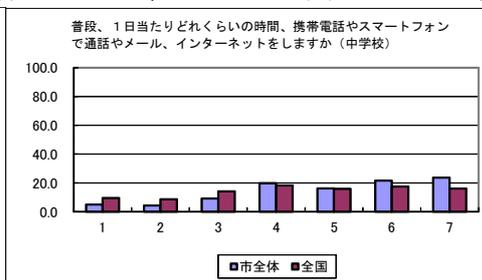
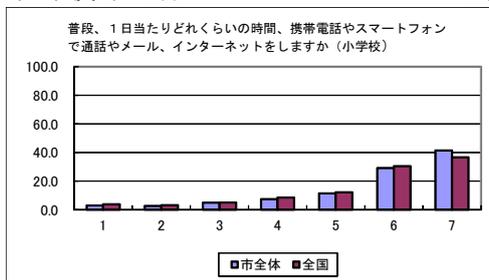
「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と回答した割合は、小学生は約42%、中学生は約23%と全国平均より高いものの、昨年より所持している児童生徒は増加している。その状況下でも携帯電話等の使用時間は全国平均と比べて少ない結果となっており、昨年度、子ども未来プロジェクトの活動として、「ネット利用の当たり前! 『4つの大丈夫』」として、情報機器を安心・安全に利用するためのルールをリーフレットにまとめ、家庭にも啓発することができた結果と考えられる。

「読書の時間」は1日当たり30分以上の児童生徒が全国平均を上回っており、良好な結果となっている。引き続き「家読」や「リレー読書」等を通じた家庭との連携により、読書習慣が身に付くようにしたい。

質問番号 (小, 中)	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(14)	普段 (月～金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか * 「4 時間以上」「3 時間以上、4 時間より少ない」「2 時間以上、3 時間より少ない」の合計	10.6	12.0	18.5	32.2
(18)	学校の授業時間以外に、普段 (月～金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか * 「2 時間以上」「1 時間以上、2 時間より少ない」「30 分上、1 時間間より少ない」の合計	40.4	36.5	32.1	29.2

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「している」「どちらかといえば、している」の合計

(14) 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか



- <選択肢項目>
- 1 4 時間以上
 - 2 3 時間以上、4 時間より少ない
 - 3 2 時間以上、3 時間より少ない
 - 4 1 時間以上、2 時間より少ない
 - 5 30 分以上、1 時間より少ない
 - 6 30 分より少ない
 - 7 携帯電話やスマートフォンを持っていない